

# 国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

## DPの「コア」：知の理論 (TOK)

2022年第1回試験

ディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組まれた教育プログラムです。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重してそれを評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

DPは、中心となる核(「コア」)を6つの教科が取り囲む構成になっています。生徒は、「言語と文学」(グループ1)と「言語の習得」(グループ2)から現代言語を2言語(または現代言語と古典言語を1言語ずつ)、「個人と社会」(グループ3)から人文または社会科学を1科目、「理科」(グループ4)から1科目、「数学」(グループ5)から1科目、そして「芸術」(グループ6)から1科目を履修します。ただし、「芸術」から1科目選ぶ代わりに、他の教科で2科目選択することもできます。多岐にわたる分野を学習するため、学習量が多く、大学入学に向けて効果的に準備できるようになっています。各教科から柔軟に科目を選択できるため、特に興味のある科目や、大学で専攻したいと考えている分野の科目を選ぶことができます。

通常は、3科目(最大4科目)を上級レベル(HL: higher level)、その他を標準レベル(SL: standard level)で履修します。IBでは、HL科目の学習に240時間、SL科目の学習に150時間を割りあてることを推奨しています。HL科目はSL科目よりも幅広い内容を深く学習します。これらに加えて、「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service)の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

DPの科目概要では、コースを構成する4つの主要要素について説明します。

I. コースの説明とねらい

II. カリキュラムモデルの概要

III. 評価のモデル

IV. 問題のサンプル



## I. コースの説明とねらい

「知の理論」(TOK: theory of knowledge) は、知識の性質、範囲、限界、および知るプロセスについて熟考する機会を生徒に提供することによって、DPにおいて特別な役割を担います。TOKの主なねらいは、生徒が新しい知識を習得することではなく、生徒がすでに知っていることを振り返り、それをより大きな視座のなかでとらえられるようになることです。また、TOKは、DPで生徒が取り組む他の科目を支え、それらすべてを統合するのに役立ちます。そして、さまざまな学問領域や「知識の領域」(AOK: areas of knowledge) でどのようにして知識が形成されるのか、それらの領域の間にどのような共通点と相違点があるかについて、意識的に考察する機会を生徒にもたらしめます。

TOKのねらいは、以下のとおりです。

- 「私たちはどのようにしてそれを知るのか。」という中心的な問いについて考え、また、この問いを投げかけることの価値を認識するよう、生徒にはたらきかける。
- 曖昧さや不確実性、さらには理にかなった答えが複数存在する問いに、生徒を触れさせる。
- この世界を効果的な方法で探り、その意味を理解する力を生徒にもたらすとともに、新奇で複雑な状況に遭遇したときに対応できるだけの備えを身につける手助けをする。
- 自分自身のものの見方についての認識を高め、自分の信念や前提を批判的に考察するよう、生徒にはたらきかける。
- 複数のものの見方に触れ、心を開く姿勢を養い、多様な文化の理解を得られるようにする。

- 学問領域の基本にある概念を探究し、さまざまなAOKで使われる探究の方法に見られる類似点と相違点を特定して、学問領域の間のつながりを見つけるよう、生徒にはたらきかける。
- 知識の生産、獲得、応用、伝達に関連する価値観、責任、倫理的な配慮の重要性について考えるよう、生徒を促す。

## II. カリキュラムモデルの概要

コースの要素	最低授業時間数
<b>コアテーマ：知識と知る人</b> このテーマでは、「知る人」(knower) および「考える人」としての自分を振り返り、私たちが属しているさまざまな「知る人のコミュニティ」について考えるよう、生徒に促します。	32
<b>選択テーマ</b> 生徒は、5つの選択テーマから2つを選択する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>知識と技術</li> <li>知識と言語</li> <li>知識と政治</li> <li>知識と宗教</li> <li>知識と土着の社会</li> </ul>	

### 「知識の領域」(AOK)

50

生徒は、5つのAOKを学習する必要があります。

- 歴史
- 人間科学
- 自然科学
- 芸術
- 数学

## III. 評価のモデル

生徒は、2つのTOK評価課題を完成させる必要があります。

- TOK展示
- TOKエッセイ (所定課題)

## 評価目標

TOKの修了時に、以下のことができるようになることを目標としています。

- 「知識に関する問い」の批判的な考察を通じて、TOKの考え方を実践する
- 「知識に関する問い」と私たちを取り巻く世界の間をつながりを見つけ、探究する
- 「知識に関する問い」とAOKの間をつながりを見つけ、探究する
- 関連性が高く、明確で、筋の通った議論を構築する
- 例とエビデンスを効果的に使用して、議論を裏づける
- さまざまな視点を認識し、それらを評価する
- 議論や結論がどのような意味をもつのかを考える

## 評価の詳細

評価の種類	評価の形式	時間数	配点比率
外部評価	TOKエッセイ	10	2/3 (67%)
	各試験セッションにおいてIBが出題する6つの所定課題のいずれか1つを選択してエッセイを執筆します。これは外部評価の評価要素であるため、IBの試験官が採点します。		
内部評価	TOK展示	8	1/3 (33%)
	3つの事物とそれに付随するコメントリー(論評)から成る展示を制作して、私たちを取り巻く世界にTOKがどのように顕在しているかを探ります。これは内部評価の評価要素であるため、学校内の教師が評価し、コース修了時にIBによる外部モデレーション(評価の適正化)を行います。		

## IV. 問題のサンプル

### 所定課題の見本

- 知識を探究する際に、専門家の意見はどの程度重要か。芸術とさらにもう1つのAOKに言及しながら答えなさい。
- 自然科学と数学を別々のAOKに分けるのは不自然であるといえるか。
- 歴史学者と自然科学者が「何事かを説明した」というとき、その「説明」という言葉は同じ意味で用いられているか。
- 芸術の知識の追求においては、人間科学の知識の追求に比べ、課される倫理的な制約が少ないのか。
- 私たちの期待は、私たちの解釈にどのように影響するか。歴史とさらにもう1つのAOKに言及しながら論じなさい。
- 「実践しなければ知識に価値はない」(アントン・チューホフ)という主張に、どの程度同意するか。2つのAOKに言及しながら答えなさい。

### TOK展示のプロンプトのサンプル

- どのようなものが知識と見なされるのか。
- 私たちはどのような理由で、主張を疑うようになるのか。
- 他よりも解釈の余地が小さい知識の種類というものはあるのだろうか。
- 知識の生産においてバイアスを避けることは不可能なのか。
- 知識によっては、倫理的な理由から追求されるべきでないものがあるのだろうか。
- 私たちの知識の消費や獲得に影響を及ぼすという点において、専門家はどのような役割を果たすか。
- 知識、信念、意見の3つを私たちはどのように区別できるか。

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト ([www.ibo.org/en/dp](http://www.ibo.org/en/dp)) でご覧いただけます。

『指導の手引き』の完全版は、IBのプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (<http://store.ibo.org>) でご購入いただけます。

DPが大学での成功に向けた素地づくりにどのように貢献するかについては、IBのウェブサイト ([www.ibo.org/en/university-admission](http://www.ibo.org/en/university-admission)) をご覧ください。